

医療生協わたり病院 医学生通信

第3号

毎月1回 発行

〒960-8141 福島県福島市渡利字中江町34

医療生協わたり病院 医局事務課

tel.024-521-2056 Email : rinkens@fmc.u-coop.or.jp



ドクター健士郎、只今研修奮闘中！

医療生協わたり病院に初期研修医「山内健士郎医師」が入職して、早2ヶ月が経ちました。先生の入職にあたり、部署毎で、研修医の為に「今までの研修医を通じて感じたこと」「何ができるのか」「何をしたいか」のアンケート調査を実施しました。これまで以上に病院全体で、山内先生の初期研修成功に向けて取り組んでいます。

3週間のオリエンテーションは、院内の各部署で行いました。院内のシステムを理解し、病院内のメディカルスタッフの役割を把握し、チームの中で期待される



救急蘇生法 (ACLS)

医師の役割について考えました。また、現在の医療情勢の中で福島県民医連、医療生協わたり病院の果たしている役割について学習しました。



病棟カンファ、中央にドクター健士郎

疾患にとらわれることなく、1人の人間として患者さんやスタッフのふれあいを大切にしながら行っています。挿管やCVなどの手技が存分に経験できるのもわたりの強みです。山内先生が困ったときは、専属の研修担当事務と、3名の看護師のメンターが研修の悩み改善点を聞いて、サポートしています。

連休明けの5月からは、今年度新設した研修の中心となる内科総合病棟で、渡部朋幸指導医長（福島医大臨床教授）のほか4名の指導医、2名の上級医、2名の指導者の下、実際に患者を受け持ちながら、研修を進めています。山内医師のペースに合わせながら、さまざまな患者さんが入院してくる病棟で、



後期研修医のもと指導を受けるドクター健士郎。

医療生協わたり病院 2013夏

“臨床力アップセミナー開催！”

【開催日程 7/31(水) ~ 8/2(金)】

このセミナーは、**実習生が主役**となって問診から患者の病歴を確実に聞き出し、EBMに基づく検査・治療計画の選択ができる。**鑑別疾患**を十分に挙げる事ができる。単に病気の治療をするだけでなく、患者さんのおかれた状況と**背景を理解**し、メディカルスタッフと円滑なコミュニケーションをとりながら、患者さんと一人の人間としてふれあえる、**当院の研修医体験**をすることを目的とした実習企画です。

【主な内容】・わたりのドクターG ・臨床倫理四分割法を用いた症例検討 ・重傷室回診
・医師看護師カンファ ・フリー病棟実習 ・ランチョンセミナー ・プレゼンをしよう

(前回参加者の声から)

- ・鑑別診断、四分割法とても良かったです。患者さんに寄添える医師になりたいと思いました。(男性)
- ・たくさんの症例をみせていただきました。大学ではあまり復習しない部分について学べて良かったです。(女性)

問い合わせ 医療生協わたり病院 医局事務課

tel.024-521-2056 Email : rinkens@fmc.u-coop.or.jp

Q. 医療生協わたり病院との出会いのきっかけは何ですか？

国井 こんにちは。昭和大学医学部6年の国井綾です。高校までいわき市でくらしていました。1年間の浪人生活を経て、東京の昭和大学へ入学することになりました。ですが、地元への愛着はかなりあったので将来は福島で、地元で働くということを漠然と考えていました。一方で、東京での一人暮らし、私立の学費は高額ということで、奨学金を探していました。たまたま母親がインターネットで目つけたのが福島県民医連。そして、問い合わせしてみ、その流れで面接を行ったのがわたり病院の医局事務課医学生担当の方でした。ということですね。長々と失礼しました。少し詳しくに答えさせていただきました。



Q. これまでのわたりでの実習で、印象に残っていること、職員の様子、わたり病院の魅力は何ですか？

国井 これまで時の流れとともに、わたり病院で幾度か実習をお願いし受け入れていただきました。



『ふれあいクリニックさくらみず』『いいの診療所』などの周辺施設や、医療生協組合員の方たちの交流の場に顔を出させていただく機会もありました。このような経験のなかで特にこれとは言えないような気がします。しかし、初期から訪問診療・訪問看護など地域に赴き、学年が上がるとともに、実習内容に病棟や外来の業務が加わったこと、そのなかでわたり病院の役割がなんとなくわかってきた気がする、というのは自身のなかで非常に大切な経験であると感じています。職員さんの様子…。あんまり疲れを感じさせな

いいの診療所のスタッフとい、という感じでしょうか。よい意味で(笑)。わたり病院の魅力。私的などころでは、医局の雰囲気が良いというところを感じます。いわゆるアットホームな印象を持ちました。将来を考える我々医学生にとってはとても大事な点ですね。ある医師は、「依頼状なしでも気軽に他科の医師にconsultできるよ」とおっしゃっていました。(あと、看護師さんたちがすてきだという噂を聞いたことがあります。わたり病院に支援に入った、東京民医連の事業所医師の話です。これを聞くと、ぼくが実習中の内容を報告させていただいたところ話しかけてくださったり、すこしの間お話しにつき合ってくださいました看護師さんたちのことを思い返します。)



仮設支援、健康チェックに参加



小児科実習

Q. 今考える、将来の医師像を聞かせて下さい。

国井 人間生きていくなかで、安心感はとても大切だと考えます。医師という職業は、多様な方たちと接する立場であると思います。このような人間的関わりあいのなかで、私はまわりの人びとに安心感を与えられる存在でありたいと思います。これは、どのような医師になりたいかというより、どのような人間になりたいか、ということですかね～汗。医師としての将来の方向性としては、内科系、とくに小児の分野を考えています。シンプルに子どもが好きなんです。友人も話していましたが、「子どもって未来を感じる」から。

Q. 医学生のみなさんにメッセージをお願いします。

国井 私は、一人一人の患者さんとしっかり向き合いながら主治医としての責任感やソーシャルワーカー含め他職種との関わり学ぶことができるわたり病院での研修をしたいと考えています。みなさん、目の前にはきっとやりたいことだらけとか、部活・バイトで急がし過ぎとか、かえって放課後は自由なんだよな一とかっていろいろな感じだと思います。各々の状況があると思いますが、すでに医師として働いている先輩方のお話や、自身の感覚から、やっぱ多様な経験をする／できるのは今でしょう！これからの医療、社会を担っていくのはみなさん若い世代です(ぼくもです(笑)!)。医学生・医師は多様な方たちと接する立場であると思います。いろいろなことに興味を持ち、考えていきましょう！